



京都府初記録のシュンカンハゼ

後藤栞汰¹・眞野陽太¹・永谷想生¹・福井雄大¹・横岡和典¹・邊見由美²

Author & Article Info

¹ 京都府立海洋高等学校（宮津市）

KY: k-yoko@kyoto-be.ne.jp

² 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所（舞鶴市）

henmi.yumi.7c@kyoto-u.ac.jp (corresponding author)

Received 22 October 2022

Revised 27 October 2022

Accepted 28 October 2022

Published 01 November 2022

DOI 10.34583/ichthy.26.0_1

Kanta Goto, Hinata Mano, Soh Nagaya, Yudai Fukui, Kazunori Yokooka and Yumi Henmi. 2022. First records of *Callogobius shunkan* Takagi, 1957 (Perciformes: Gobiidae) from Kyoto Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 1–3.

Abstract

Two specimens of a gobiid species, *Callogobius shunkan* Takagi, 1957, were captured in the pier of Marine High School, Miyazu, Kyoto Prefecture (western Wakasa Bay), during July to September 2021, representing the first reliable records from Kyoto Prefecture. These individuals were characterized by having a dusky or slightly dark brown body with three dark brown bands, and two black spots on the second dorsal-fin base.

ハゼ科オキナワハゼ属 *Callogobius* は、頭部の各々の孔器列が1列で、孔器が皮摺上に開孔すること、および両鼻孔が筒状に突出することなどの形質で特徴付けられ（明仁親王・目黒, 1977）、これまでに42有効種が知られている（Fricke et al., 2022）。本属魚類のシュンカンハゼ *Callogobius shunkan* Takagi, 1957 は、東アジア固有種で、日本国内においては千葉県以南の太平洋沿岸、伊豆諸島、石川県、長崎県、鹿児島県の宇治群島、および奄美大島における分布が確認されている（明仁ほか, 2013; Motomura et al., 2016; Nakae et al., 2018; An et al., 2020; 小木曾ほか, 2021）。

2021年に京都府の若狭湾（宮津市に位置する京都府立海洋高等学校の棧橋）でシュンカンハゼに同定される個体が著者らによって採集された。これまで、本種の日本海における分布記録は、上記のとおり石川県に限られており、若狭湾産の標本はシュンカンハゼの京都府初記録となるためここに報告する。

材料と方法

標本の計数および計測は中坊・中山（2013）に、頭部感覚孔の名称は明仁親王・目黒（1977）に従った。計測はノギスを用いて0.01 mmの精度で行った。標準体長（standard length）はSLと表記した。本研究で用いた標本は、いずれも53%エタノールで固定され、京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所（FAKU）に保管されている。なお、FAKU 149527は尾鰭後端と臀鰭を中心に損傷が激しかったので、可能部位のみ計測し、形態の記載はFAKU 149526のみに基づいた。

Callogobius shunkan Takagi, 1957

シュンカンハゼ

(Fig. 1A–C)

標本 FAKU 149526, 44.9 mm SL, 京都府若狭湾（宮津市に位置する京都府立海洋高等学校の棧橋；35°32'59.6"N, 135°14'14.0"E）、2021年7月22日、タモ網、眞野陽太；FAKU 149527, 9.6 mm SL, FAKU 149526と採集日以外、同データ、2021年9月20日。

記載 FAKU 149526とFAKU 149527の体各部の体長に対する割合は以下の通り（変異幅がないものは前者の値のみに基づく）：全長120.4%；頭長26.4–37.6%；頭幅22.5–22.8%；吻長8.7–11.3%；上顎長7.3–8.8%；眼径6.9–9.8%；両眼間隔3.0–4.8%；腹鰭起部における体高15.6–19.2%；臀鰭起部における体高15.1%；体幅18.7%；尾柄高13.1–14.2%；尾柄長22.9%；臀鰭基底長12.1%；胸鰭長17.9–26.3%；腹鰭長21.1%。

体は円筒状で円鱗におおわれるが、第1背鰭起部および肛門前方にのみ櫛鱗がみられる。頭部は尾鰭長とほぼ同じ長さで、やや縦扁する。吻部と両眼間隔部には鱗がなく、後頭部と頬部から円鱗におおわれ、両眼間隔は眼径より狭い。前眼肩甲管には、開孔B', C（単一）、D（単一）、E, F, G, H'がある。後眼肩甲管には開孔K'とL'がある。前鰓蓋管には開孔M', N, O'がある。頭部の孔器列は発達し、横列皮摺を形成する。頭部腹面に位置する孔器列16は皮

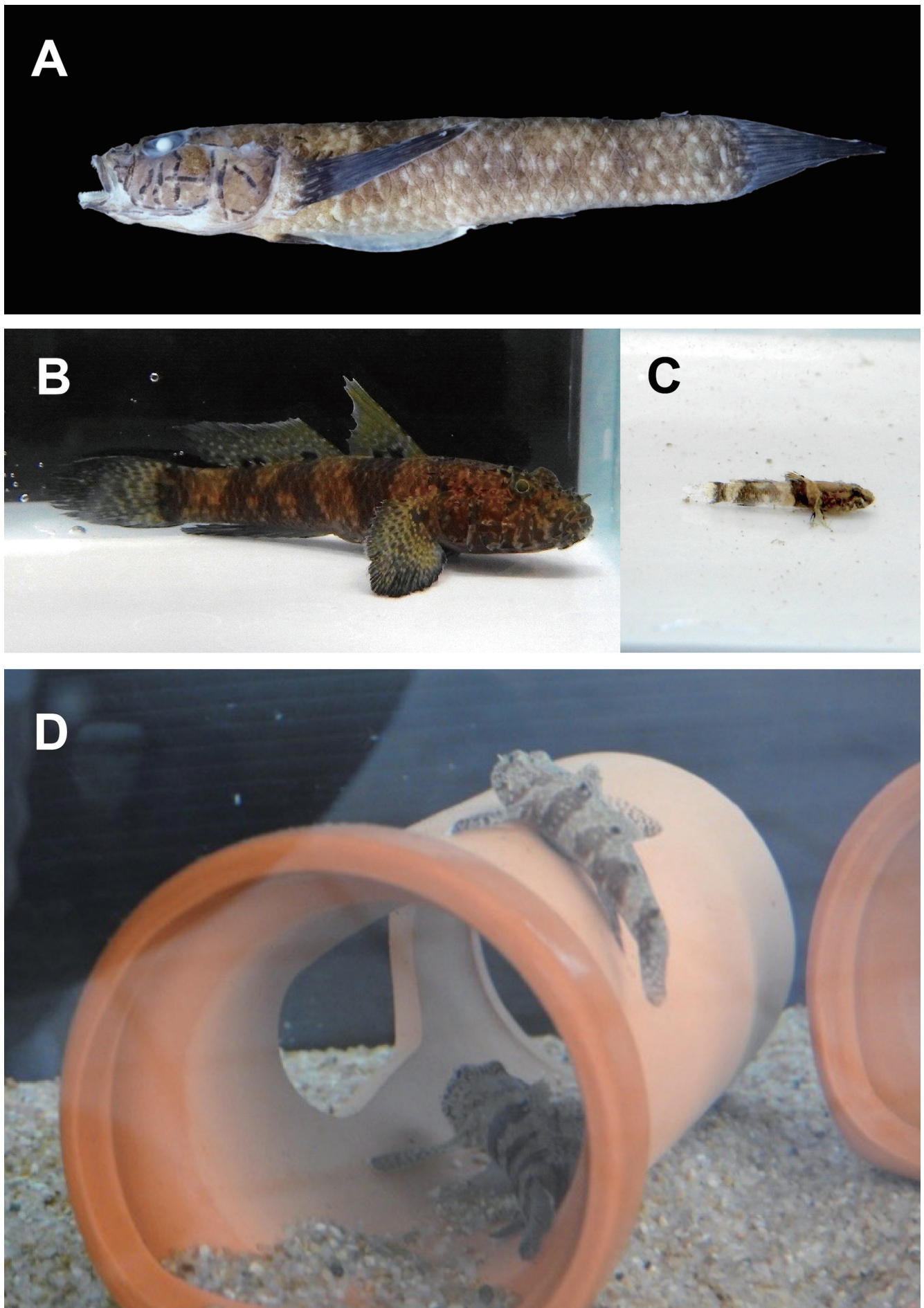


Fig. 1. Photographs of *Callogobius shunkan* collected from Wakasa Bay, Kyoto Prefecture, Japan. (A) Preserved specimen and (B) live individual (FAKU 149526, 44.9 mm SL); (C) live individual (FAKU 149527, 9.6 mm SL); (D) two live individuals in aquarium (not cataloged), photographed on 12 December 2021.

摺上に開孔する短横列孔器と皮摺のない1縦列孔器からなる。頬部下部を縦方向に走る孔器列14と15は、孔器列8と9の間で中断しない。孔器列20がある。第1背鰭は6棘で、第1棘が最長で、後方にかけて短くなる。第1背鰭と第2背鰭は接近する。第2背鰭は1棘10軟条で、基底から先端にかけて長さが一様に等しい四角形。臀鰭は1棘7軟条。胸鰭は17軟条で、縁辺は丸く、後端は臀鰭起部に達する。腹鰭は膜蓋があり、1棘5軟条で左右が癒着し、丸い吸盤状を呈しており、基部から2つに分かれない。尾鰭後縁は丸い。

色彩 生時の色彩 (Fig. 1B, C) — FAKU 149526の体は一様にやや濃い褐色。FAKU 149527の体は、第1背鰭より前方は濃い褐色で、それより後方は淡褐色；鮮明な暗色横帯が第1背鰭下に1本、尾鰭基底部に1本ある。第2背鰭には2本の不鮮明な暗色横帯があり、腹部に向かうにつれ広がる。第1背鰭の第4–5棘の基底部間と第6棘の基底部に1個ずつ、第2背鰭の第4–5軟条および第9–10軟条の基底部間に黒色斑が1個ずつある (FAKU 149527では第2背鰭が破損している)。第1背鰭、第2背鰭、胸鰭および尾鰭は薄く黄色がかっており、各鰭の鰭条は褐色と白色の縞模様を呈する。胸鰭縁辺、腹鰭および臀鰭は一様に黒色で、縁辺は白色で縁どられる。

分布 シュンカンハゼは、日本、香港、および韓国に分布し (明仁ほか, 2013; An et al., 2020)、国内においては、千葉県館山から鹿児島県の知覧にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島 (伊豆大島と八丈島)、日本海沿岸 (石川県の九十九湾)、東シナ海沿岸 (長崎県の香焼と鹿児島県の宇治群島)、および琉球列島の奄美大島からこれまで記録されており (明仁ほか, 2013; Motomura et al., 2016; Nakae et al., 2018; 小木曾ほか, 2021)、本研究により、新たに京都府の宮津湾からも本種が記録された。

生息環境 記載標本および未登録個体 (後述) が採集された際 (2021年7月6日・22日および9月20日) の表層水温はそれぞれ24.4°C、29.6°Cおよび26.3°Cであった。採集地点は、水深約6–10 mで礫交じりの砂泥底になっており周囲にはアマモが群生していた。

備考 記載標本は、胸鰭条数が17、臀鰭条数が8、第1背鰭と第2背鰭が接近すること、腹鰭には膜蓋があり、同鰭が基部から2つに分かれないこと、腹鰭後縁と尾鰭が丸いこと、頭長が尾鰭長とほぼ同じこと、後眼肩甲管に開孔K'とL'があること、孔器列16が皮摺上に開孔する短横列孔器と皮摺のない1縦列孔器からなること、第1および第2背鰭下に3本の暗色横帯があること、および第2背鰭の基底部に2個の黒色斑があることの特徴が明仁・目黒

(1977) および明仁ほか (2013) が示したシュンカンハゼ *Callogobius shunkan* Takagi, 1957 [明仁・目黒 (1977) では *Callogobius snelli* Koutmans, 1953 として掲載] の記載に一致したため、本種に同定された。

シュンカンハゼの記録は「分布の項」で示した通りであり、記載標本は京都府初記録となる。日本海沿岸では石川県からも本種が記録されていることに加え、今回の記載標本に加え2個体のシュンカンハゼ (Fig. 1D) が2021年7月6日と9月20日に同地点 (京都府立海洋高等学校の棧橋) から採集されていること (これら2個体は未登録)、および本種の分布パターン (分布の項を参照) から、シュンカンハゼは日本海沿岸に広く分布していることが考えられ、継続した調査や本種の生態を考慮した調査を行うことで、日本海沿岸のその他の場所からも本種が記録される可能性が高い。

謝 辞

京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所の甲斐嘉晃氏には種同定に協力していただいた。マリンバイオ部員には生体飼育に協力していただいた。Ichthy編集委員の藤原恭司氏には原稿に対して大変有益なご指摘を頂いた。以上の方々に謹んで御礼申し上げます。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ垂目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・目黒勝介. 1977. 日本で採集されたオキナワハゼ属5種及びその類縁関係. 魚類学雑誌, 24: 113–127. [URL](#)
- An, J.-H., B.-J. Kim and S.-K. Kim. 2020. First record of a goby, *Callogobius shunkan* (Perciformes: Gobiidae) from the southern coastal waters of Jeju Island, Korea. Korean Journal of Ichthyology, 32: 251–256. [URL](#)
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.). 2022. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](#) (6 May 2022)
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 小木曾正造・中町 健・坂井恵一. 2021. 能登でシュンカンハゼが見つかりました. 能登の海中林, 54: 6. [URL](#)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. M. K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. Memoirs of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 64: 10–34. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維蔵・瀬能 宏. 2021. 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京. 588 pp.